

## ダンゴ虫への興味を深める環境の工夫(親子体験活動) みくに幼稚園 (千葉県柏市)

科学することは、人間が本来持っている力を引き出すことにありと考へ、「科学する心が育つ環境づくり」に取り組みました。そのいくつかの視点の中から、「なぜだろう、不思議だなという子どもたち一人一人の好奇心、感性を大切に、子どもたちが、遊ぶ喜び、学ぶ喜び、そして共に生きる喜びを味わうため、どのような人的物的環境が望まれるのか」という点についての特徴的な取り組みである親子体験活動の1事例です。

### 具体的な手立て

- 各種情報媒介の有効的な利用・・・・・・・・・・
- 幼稚園にかかわりのある多くの人材の活用・・・



新入の年少児たち  
お兄さんを真似て  
ダンゴ虫を捕まえて満足そう

### 事例 ダンゴ虫

実 態	保育者の思い(T)・指導の工夫(手立ての番号)
<p>園庭の探索を始めた子どもたちは、プランターの裏を覗き込んだり、堆肥を掘り返したりしながらダンゴ虫を探している姿がよく見られる。(4月)</p> <p>写真ではなく、生きたダンゴ虫が拡大されて動く中で子どもたちは様々な発見をする。</p> <p>今まで、何とはなしに見ていたダンゴ虫が、我々と同様に素晴らしい生き物であることに気付かされた様子で、この活動の後、幼稚園でも家庭でも、大人も子どももダンゴ虫探しがブームになる。</p>	<p>T 足の本数、雌雄の見分け方、ダンゴ虫の走行性、何を食べるのか、糞のしまつの仕方などに、子どもたちの興味が行くだろう。しかし、実際の場面でこれらのことを知らせることは大きさ的にも、時間的にも困難になると予想した。</p> <p style="text-align: center;">虫眼鏡、顕微鏡及びテレビモニターを活用する。</p> <p>T 枯葉を食べている様子と糞をするところも、みんなで見られるようにしたい。</p> <p>お父さん方のネットワークをたどって、とうとう、ダンゴ虫の生態の貴重なビデオも入手する。デジタルカメラ、ビデオカメラ、拡大鏡、テレビなどの特長を活かしての映像で、本では得られない体験ができるようにする。(その後の子どもたちの活動に多くの影響を与えられた。)</p>



ダンゴ虫レース  
大人も思わず興奮



枯葉を食べるところ コマ落しで見  
フンを足で切るところ 拡大して見る



虫への関心高まる  
(観る・飼育する・表現する)

幼児期に於いては家庭における保護者の役割がとても重要な位置を占めている。親が子どもと一緒に活動したり、感動する中で、親子がともに科学する心を持つことが大切である。また、地域の特性として、この地域に移り住んでから10年以内の家庭が7割を越す現状から、地域において親しい人がいない、親同士の連帯が生まれにくいということがわかった。

### みどころ

子どもたちにとって大切な自然環境のひとつ、「ダンゴ虫」に着目して、「科学する心が育つ環境づくり」の工夫が図られています。そのために、園の特徴的な取り組みで大きな役割を担う教育環境となっている「保護者」(人的環境)により、ダンゴ虫の生態の貴重なビデオ、デジタルカメラ、ビデオカメラ、拡大鏡、テレビなどの特長を活かしての映像による、貴重な体験の場(物的環境)が設けられました。

また、保護者も子どもたちと共に遊びを楽しむことで、「何を食べるの?」「どうなっているの?」という子どもたちの不思議や疑問の追求につながり、更なる興味が引き出されることによる「観る・